

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
8 3	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
<b>題名 (原題/訳)</b> Lifestyle factors: are they related to vasomotor symptoms and do they modify the effectiveness or side effects of hormone therapy? 生活習慣：それらは血管運動症状と関係があるのか、そして、それらはホルモン療法の効果や副作用を修飾するのか？	
<b>執筆者</b> Greendale GA, Gold EB.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b> Am J Med. 2005;118(Suppl 2):148-54.	
<b>キーワード</b> 飲酒、Body Mass Index、喫煙、更年期、性ステロイド、血管運動症状	
<b>要 旨</b> (目的) (1)生活習慣 (飲酒、喫煙、身体活動) や Body Mass Index (BMI) は閉経期や閉経後の女性における血管運動症状の発現と関係あるのか、および(2)生活習慣や BMI は更年期のホルモン療法の効果や副作用を修飾するのかを明らかにすること。  (方法) 上記に関連した公表された論文を検索してまとめた。  (結果) 低容量の飲酒 (女性で 1 日 1 杯以下) は血管運動症状の発現に影響を及ぼさない。多量の飲酒が血管運動症状を躍起するか否かは明らかではない。能動喫煙は血管運動症状の発現と関連がある。受動喫煙も血管運動症状の発現と関連がある。しかし、身体活動と血管運動症状の発現には関連がないが、血管運動症状の発現頻度は低く、身体活動が血管運動症状の発現に及ぼす影響を明らかにするには限界がある。肥満は血管運動症状の発現と関連がある。しかし、生活習慣や BMI が血管運動症状の発現と関係あるのか否かを明らかにするには、それに関連した情報が不足しており、明らかにするとは困難である。 (結論) 喫煙と肥満は血管運動症状の危険因子である。血管運動症状が見られる女性は禁煙や減量によって同症状発現を抑えられるかもしれない。しかし、生活習慣や BMI と血管運動症状の関連はまだまだ不明な点が多い。	